

	<p>(公財)水道技術研究センター 〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-28 K. I. S 飯田橋ビル 7F TEL 03-5805-0264, FAX 03-5805-0265 E-mail jwrchot@jwrc-net.or.jp URL http://www.jwrc-net.or.jp</p>
--	---

第 11 回水道技術国際シンポジウム 参加登録のお願い(5月31日締切)

水道技術国際シンポジウムは、日本で唯一、定期的に行われる水道技術に関する国際会議です。1988年に第1回を神戸市で開催して以来、3年に1回開催して参りました。今回、第11回を本年7月に近代水道発祥の地「横浜市」において開催いたします。

また、シンポジウムに併せ、関係企業・団体が最新技術等を紹介する入場無料の展示会を開催いたします。

現在、シンポジウム参加登録を開始していますが、お申込期限は5月31日(金)までとなっています。是非、多くの皆様のご参加を、心よりお待ち申し上げます。

参加登録はこちらからお願いいたします。

第11回水道技術国際シンポジウム ホームページ <https://water2019.jp/>

海外招待講演者の紹介

第11回水道技術国際シンポジウムで講演を行う、海外からの講演者の顔ぶれをご紹介します。

7月9日(火)

- ・海外特別講演

「信頼性が高く、強靱かつ持続可能でスマートな水道のための
IWAの行動計画」

Sudhir Murthy

国際水協会 (IWA) 上席副会長



IWA: International Water Association (国際水協会)

ロンドンに本部を置く世界最大級の水に関する非営利団体。日本を含む世界130の国で、約500の企業や研究機関、約10,000の個人や学生が会員になっている。1999年に、当時の国際水道協会 (IWSA) と国際水環境協会 (IAWQ) が合併して誕生した。世界における安定・安全な水の供給と公衆衛生への寄与を目的としており、IWA 世界会議をはじめとする国際会議を各国で定期的に行っている。

・海外招待講演①

「イングランドおよびウェールズの飲料水水質規制」

Marcus Rink

英国 飲料水検査官事務所 (DWI) 最高検査官



英国 飲料水検査官事務所 (DWI)

英国のイングランド・ウェールズにおける水道水質を管轄する政府の機関。イングランド・ウェールズの水道事業は 1989 年に完全民営化されており、現在約 30 の民営水道会社が水源から蛇口までの水道事業を担当している。DWI は、民営化にともない設置された規制機関のひとつである。その任務は民営水道会社が供給する水道水の水質監視であり、水道水質に関する年次報告書を毎年公表している。

・海外招待講演②

「南オーストラリア州水道公社と国内の大学との技術協力により開発された水道ネットワークのスマートな分析方法」

Mark Stephens

豪州 南オーストラリア州水道公社 アセット主任分析官



オーストラリア 南オーストラリア州水道公社 (South Australian Water)

オーストラリアの南オーストラリア州政府が所有する上下水道会社。給水人口は約 170 万人、本部は州都アデレードにある。団体としての歴史は約 160 年におよび、配水管延長の 27,000 km は国内の事業体で最長である。2017 年、アデレードのビジネス地区を対象に、スマートウォーター・ネットワークプログラムを開始。100 台のスマートメーターなどを導入し、漏水の予防保全的な修繕に努めている。

・海外招待講演③

「最小限の前処理後における RO 膜ファウリングの抑制」

Emile Cornelissen

オランダ 水循環研究所 (KWR) ※浄水処理シニア研究員



オランダ 水循環研究所 (KWR)

オランダにある水道の研究開発機関。その前身は、1948 年に設立された配水用資機材の認証機関 Kiwa。2006 年、Kiwa の研究部門が KWR として独立して誕生した。約 170 名の職員を抱え、水循環のさまざまな側面における研究を行っている。国内の上水道事業は全部で 10 の公営企業が担っており、KWR はこれら 10 社の出資で設置されたが、2016 年、ベルギーの水道会社が初の外国株主として参加した。

7月10日(水)

・第1分科会 海外招待講演

「ソウルのスマート水道システム:どの程度スマートなのか？」

Young-June Choi

韓国 ソウル特別市水道局研究開発部長



韓国 ソウル特別市水道局

韓国のソウル特別市を所管する水道事業体。給水人口は約1,000万人。高い水道水質を誇っており、水道水に「アリス」と呼ばれるブランドネームを冠している。ソウルを東西に横切る全長約500kmの河川・漢江をおもな水源とし、浄水処理ではオゾン処理および微粒子活性炭処理を行っている。経営の効率化のため、1989年に独立採算制にもとづく事業形態に移行し、1991年に水道普及率100%を達成した。

・第2分科会 海外招待講演

「地域および地区レベルのサービス目標達成に向けたサンフランシスコの水道の改善」

Sam Young

米国 サンフランシスコ公共事業委員会 (SFPUC)

配水部エンジニアリングマネージャー



アメリカ サンフランシスコ公共事業委員会 (SFPUC)

米国サンフランシスコ市の上下水道事業および電力供給事業を担当する事業体。近隣の3郡への用水供給も行っている。用水供給地域を含む給水人口は約260万人、市内だけでみると85万人。現在、水道システムの冗長性、耐震性、水質などの向上のため、大規模な設備投資プロジェクトを行っている。事業費用は約48億米ドル。2018年8月時点で全体の96%が完成しており、2021年の竣工を目指している。

・第3分科会 海外招待講演

「未来の水道のために今なすべきこと」

Shane Morgan

ニュージーランド ウォーターケアサービス社

最高運営責任者



ニュージーランド ウォーターケアサービス社

ニュージーランド最大の都市、オークランドを所管する上下水道会社。その株式はすべて市が所有する。給水人口は約140万人だが、今後30年間で約70万人の人口増加を見込む。水道料金とは別に「インフラ増強費」を顧客から徴収しており、将来の人口増加とそれに伴うインフラの新設に備えている。2010年代に複数の近隣コミュニティを統合して広域化を実現し、広域化後は全地域で水道料金を統一した。

※7月11日(木)には、東京大学大学院工学系研究科の滝沢教授を座長として、総合パネルディスカッションを実施いたします。上記の講演者もパネリストとして登壇いたします。

各国における先進的な取組事例や知見を共有することのできる貴重な機会となります。参加登録のご検討をお願い申し上げます。

(担当) 調査事業部

配信先変更のご連絡等について

「JWRC水道ホットニュース」配信先の変更・追加・停止、その他ご意見、ご要望等がございましたら、会員様名、担当者様名、所属名、連絡先電話番号をご記入の上、下記までEメールにてご連絡をお願いいたします。
〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-28 K. I. S飯田橋ビル7F (公財) 水道技術研究センター ホットニュース担当

E-MAIL : jwrchot@jwrc-net.or.jp

TEL 03-5805-0264 FAX 03-5805-0265

また、ご連絡いただいた個人情報は、当センターからのお知らせの配信業務以外には一切使用いたしません。

水道ホットニュースのバックナンバーについて

水道ホットニュースのバックナンバー(第58号以降)は、下記アドレスでご覧になれます。

バックナンバー一覧 <http://www.jwrc-net.or.jp/hotnews/hotnews-h30.html>

水道ホットニュースの引用・転載について

水道ホットニュースの引用・転載等を希望される方は、上記ホットニュース担当までご連絡をお願いいたします。
なお、個別の企業・商品・技術等の広告にはご利用いただけません。